

製作所の仲間とやってみたい日本文化体験（お茶 - 茶道）

野路第二C製作所 グエン ティ ホン トア

私は滋賀県草津市の野路第二C製作所 2023年5月から働いています。ベトナムで日系企業の工場で働いた経験があることから日本文化についても興味を持ちました。中でも茶道（お茶）について特に興味を持ちました。日本はアジアの国なので、ベトナムと文化的に多くの類似点があります。たとえば、だれもお茶を楽しむのが大好きです。しかし、作り方や楽しみ方は全く異なります。ベトナムは熱帯気候の国だからでしょうか、友人や親戚とおしゃべりしながら賑やかな雰囲気の中でお茶を楽しみます、日本は温暖な気候帯にあるため、お茶の楽しみ方はベトナムほど騒がしく賑やかではなく、より穏やかで静かな傾向があります。場合によっては、気候が各人の性格やライフスタイルを部分的に決定することもあります。それぞれの気候地域には独自の特徴があります。日本語と日本文化勉強して理解して以来、これまで知らなかった文化的特徴をさらに吸収したように感じており、特に茶道に興味を持っています。茶道は単にお茶を飲むだけではなく、お茶を点て、生活儀式としてお茶を楽しみ、生き方や自己修養としてお茶を利用する美であり、生活芸術でもあります。日本の茶道は12世紀初頭からこの国の人々の生活に取り入れられてきました。それは各家族の生活と密接に関係しています。日本人はお茶を飲む楽しみと仏教の禅の精神を組み合わせるお茶を楽しむ芸術を強化し、この芸術を茶道として発展させました。茶道は、単に茶を飲むための道や作法ではなく、自然と融合して心を浄化し、心を養い、人格を養い、悟りを開く有効な手段です。日本の茶道文化には、従わなければならない多くの手順が含まれます。茶道室に入るときは、スリッパを脱ぎ、騒音を立てず、大声で話さず、茶室に案内され、顔を洗い、口をすすいでからお茶をいただきます。一般的なお茶会は、お茶を点てたり飲んだりすることを含めて4時間続きます。お茶の作り手は、お茶を淹れる前に茶器を熱湯で加熱し、乾燥させます。お茶を淹れる際には、醸造家が専門の茶ディスペンサーを使用して、ゲストの人数に適したお茶の量を計算します。楽しむ際にはお茶会のルールやマナーを守る必要があります。日本人はお茶を飲むとき、お茶の風味を高めるために和菓子と一緒に食べることがよくあります。お茶会が終わったら、挨拶をして順番に立ち上がって帰ります。この日本の茶道文化には複雑なぎしきがたくさんありますが、多くのせんさいな点があります。茶道は平和の象徴でもあります。私が学んだ情報や知識は全て本やインターネットですが一日も早く、私も皆さんもこの”日出ずる国”の茶道文化を、茶道職人自らが体験していただきたいと願っています。日本に来る目的はここの文化を体験するためです。